

国立病院機構熊本医療センター

No.249



発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501 (代)
FAX (096) 325-2519
連携室直通 TEL (096) 353-6693
連携室直通 FAX (096) 323-7601

くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS



第23回

国立病院機構熊本医療センター医学会

が開催されました

1月20日に国立病院機構熊本医療センター医学会が開催されました。診療部門、看護部、メディカルスタッフ及び栄養科、看護学校、事務部門など院内各部署から症例報告・臨床研究報告など34題の演題が発表されました。一部を紹介しますと、脳外科から当院で急性硬膜下血腫に対して行われた局麻下穿頭術23例と全麻下開頭術33例の後方視的な比較がなされ、局麻下穿頭術の有用性を示されました。また7北病棟からは新規採用オムツと尿とりパットの運用方法を検討した結果、トラブルなくオムツ交換回数を減らせ、患者の中途覚醒を防ぎ、夜間看護業務負担も減らすことができたという有意義な発表がなされました。歯科からは緩和チームにおける歯科介入の検討がなされ、緩和ケア患者の87%に専門的介入が必要で実際にその7割に介入が行

われたなど、歯科介入の重要性を発表していただきました。

いずれの発表も、それぞれの現場で起こった疑問や問題を解決するために、よく計画され、注意深く観察し、さらに根気強くまとめた成果でした。この積み重ねが我々の診療のグレードアップにつながると期待され、とても心強く感じられました。

尚、当日は、青磁野リハビリテーション病院金澤親良先生、小山クリニック小山研一先生にはお忙しいところ座長をお引き受けいただきました。それぞれのお立場からとても有意義なコメントによって活発な深い討議につなげていただきましたこと、ここに厚く御礼申し上げます。(臨床研究部長 日高道弘)

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



「まだまだ挑戦中…」

医療法人社団
中耳サージセンター熊本未来
熊本未来クリニック
院長 野口 聡



熊本市北区で中耳手術に専門特化した短期入院型手術センターを開院して8年目になります。(外へは耳鼻咽喉科全般を扱っております)

あまり前例のない形態での開業でしたので、正直苦労もありましたが、頼りになる愛すべきスタッフに支えられて、忙しいながらも結構楽しく仕事をさせて頂いております。

試行錯誤を繰り返しながらも、耳の手術(鼓室形成術)部門では、毎年全国ランキングのTOP20に入れて頂き、開院以来の手術症例数は1000例を超えました。(全国19位、九州3位、熊本県1位:週刊朝日2018)

そして症例数だけでなく高いレベルの手術成績(術後聴力改善・再発率)を維持できる様努力するとともに、小規模クリニックならではのfriendlyな対応で患者様の高い満足度が得られる様スタッフ一同日々頑張っております。

当院のメインテーマである中耳真珠腫は術後も長期followが必要な疾患です。医療の分業化が進む時代に逆行しているかもしれませんが、患者様に対しては手術だけでなく、主治医として診断→治療→術後followと最後まで一貫してお付き合いしていくようなクリニックでありたいと考えています。

医師一人の個人クリニックで大規模病院と同様の手術を行っていくにはチーム医療と医療連携が不可欠です。

院内院外を問わずどれだけ多くの良い仲間と親密に連携できるか、そしてそのネットワークの輪を大きく広げていくことで、決して一人ではできない総合力の高い医療も展開できるようになると身に染みて感じる毎日です。

勤務医時代に20年近くお世話になった熊本医療センターは、自分の医療の座標軸であり、高橋院長をはじめ現在の病院幹部の先生方は、長年共に戦った戦友のような存在です。

より良い連携を通して、甚だ微力ではありますが、熊本の医療の一端を担って共に歩いて行けたらと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

地域医療研修センター運営委員会が開催されました

平成30年2月6日16時より当院の応接室で、院外から運営委員会委員長・熊本県医師会会長福田桐様、熊本県健康福祉部健康局長田原牧人様、熊本市健康福祉局長池田泰紀様、熊本大学医学部長安東由喜雄様、熊本大学医学部附属病院長水田博志様、熊本市歯科医師会会長宮本格尚様、鹿本医師会(保利病院理事長)保利哲也様、熊本県医師会理事江上寛様、熊本県医師会理事魚返英寛様、熊本県薬剤師会会長廣田誠介様、熊本県看護協会会長嶋田晶子様にご参加いただき、また院内から院長、副院長、統括診療部長、歯科口腔外科部長、薬剤部長、看護部長、事務部長出席のもと、地域医療研修センター運営委員会が開催されました。

平成29年度も多数の方々に参加していただき、平成30年1月31日現在で院内外合計44,262名の方に研修センターをご利用いただき、昨年度の43,533名を上まわる参加をいただきました。この場をお借りして深く感



地域医療研修センター運営委員会の様子

謝申し上げます。

当研修センターは開設以来33年目を迎えますが、これまでの研修を継続するとともに今後さらに内容の充実に努めて参る所存です。御参加方よろしく願い申し上げます。(地域医療研修センター主幹 富田正郎)

クリティカルパス実践研修が行われました

平成20年2月16日当院にて、九州グループ主催のクリティカルパス実践研修会が開催されました。九州グループ13病院より39名の医師、看護師、診療情報管理士の方々に参加して頂き、これから増加してくる「誤嚥性肺炎」の治療クリティカルパスをテーマに研修を行いました。長崎川棚医療センター、再春荘病院、それに当院から現在使用しているパスをもとに見直しを行いました。感染症科・呼吸器内科の小野宏医長と救急科の北田真己医長から誤嚥性肺炎と重症肺炎治療についての講義があり、その後グループワークを行いました。

この研修を通じて、誤嚥性肺炎の治療は単なる抗菌薬の選択では解決できず、低下している嚥下機能を評価し、改善するための看護、リハビリが重要であることが明らかになりました。まさにチーム医療で早期に患者の病態に合った各種のリハビリを開始することで、



感染症科・呼吸器内科の小野宏医長による講義の様子

入院治療でさらに低下しやすい生活機能を落とさずに在宅へ復帰させることができると感じました。参加して頂いた皆様の提言を活かしてそれぞれの病院で今後の取組を改善しましょう。最後に研修会を企画、準備して頂いた九州グループの担当者に感謝申し上げます。

(副院長 清川哲志)

「国際医療協力」肝炎コース

JICA集団研修 “包括的なウイルス肝炎対策”

当院では国際医療協力の推進を病院の基本方針の1つとし、1988年よりJICAの依頼を受けて、発展途上国を対象に集団研修コースを開始しました。当初より肝炎に関する集団研修を実施し、2015年より“包括的なウイルス肝炎対策”としてリニューアルしました。

第3回研修は2018年1月9日より2月2日にかけて開催され、エジプト、ミャンマー、モンゴルより、計3カ国9名の研修員が参加しました。研修プログラムには日本全国より選りすぐりの講師陣をラインアップし、施設見学研修を盛り込みました。時間の許す限り講義を傍聴し、見学に同行しましたが、改めて本コースの質の高さを実感しました。もちろん研修員より高い評価を受けています。

世界保健機関（WHO）は、2011年に世界的レベルでのウイルス性肝炎のまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消や感染予防の推進を図ることを目的として、7月28日を「世界肝炎デー」と定め、肝炎に関する啓発活動等の実施を提唱し、世界的に肝炎への関心が高まりつつあります。ウイルス肝炎はWHOでは世界3大感染症であるマラリア、結核、HIV/AIDSに次いで重要と位置づけられていますが、B型・C型肝炎感染者は世界で5億人以上と推計され、世界における肝炎対策はますます重要になると考えられます。近年抗ウイルス治療は飛躍的に進歩し、WHOは2030年を肝炎撲滅のゴールと決めました。そのためには治療のみならず住民啓発を含む感染対策、感染者の拾い上げ、治療後のフォローなど包括的な対策が重要になります。本研修はまさにその趣旨に沿うものであり、肝炎撲滅の後押しとなるでしょう。

30年間続いたこのウイルス肝炎集団研修コースは今回でひとまず終了しますが、現地でのフォローアップ研修の後に次の集団研修の策定を行うつもりです。これまでこのコースを支えていただいた関係の皆様がこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

(コースリーダー 診療部長・消化器内科部長 杉 和洋)



参加者から贈られた寄せ書き



閉講式での記念撮影

第7回 二の丸外傷セミナーが開催されました

2018年2月12日に、第7回二の丸外傷セミナーが開催されました。これは、当院の初期臨床研修医1年次を対象とした、外傷初期診療のシミュレーションコースです。患者シミュレーターを用いて、実臨床さながらの状況でシナリオを通して学ぶコースで、内容は、外傷初期診療ガイドライン「JATEC」に準拠しています。院内の救急科医師、外科医師が協力して毎年開催しており、今回で7年目となりました。毎年、アシスタントとして研修医2年次が参加しており、今年も後輩を指導致しました。また、当院の初期臨床研修を卒業された、伊東山剛先生（現：新別府病院脳神経外科）にも指導者として参加していただきました。さら



参加者と記念撮影



初期診療シミュレーションの様子

に、済生会熊本病院から初期臨床研修医1年次の先生が8名、見学者として参加されました。当日は雪の舞う中でしたが、研修医1年次の先生は、外傷診療について朝から晩まで学び、また研修医同士良い刺激を受け、密度の濃い1日になったものと思います。指導する側にも、学びの多い充実した1日となりました。研修医の先生方は、このセミナーを通して大きく成長し、今後の救急医療を支えていただけるものと期待しています。ご協力いただいた方々に、この場を借りて心よりお礼申し上げます。

（救命救急センター 山田 周）

救急放射線ERセミナーが開催されました

平成30年1月30日～2月2日の4日間、当院におきまして、国立病院機構九州グループ主催の「平成29年診療放射線技師特定技能派遣研修会 救急放射線（ER）セミナー」が開催されました。

本セミナーは、救急放射線に関して、「救急医療に関する基本的な講義と臨床技能研修（救急検査技術研修・読影補助研修）」並びに「実技演習」を行い、救急医療に携わる診療放射線技師の育成と資質向上を図ることを目的としています。今回は九州の各施設より8名の方が研修会に参加されました。

研修内容は、1日目は救急医療に関する基礎的な知



講義の様子

識を習得するため、救急医療に関わる各診療科の医師による講義。

2、3日目は、救命救急センターにおいて、搬送される患者の受け入れから初期診療、検査、治療までの救急医療体験。また、緊急検査技術および画像診断の臨床技能研修、読影補助の実習。

4日目は、救急蘇生法の実技演習と救急医療におけるメディカルスタッフの役割の講義と、グループワークと、多岐にわたり講義と実習を行いました。

今後、受講生にはこの知識と経験を各施設において活かし、救急医療の質の向上に取り組んで頂きたいと思っております。

（診療放射線技師長 古川則行）



修了証を手に記念撮影

最近のトピックス

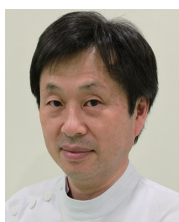
閉塞性動脈硬化

～無症候性病変及び行例の管理について～

ガイドライン「下肢アテローム硬化性閉塞性動脈疾患に対する診療ガイドライン：無症候性病変および跛行例の管理」より

心臓血管外科部長

岡本 実



閉塞性動脈硬化症（Arteriosclerosis Obliterans：ASO）は四肢、特に下肢に異常をきたす疾患で、アテローム硬化性動脈硬化により下肢主幹動脈の狭窄や閉塞をきたし病態の進展とともに間欠性跛行、四肢の潰瘍、壊疽を呈し、運動能力や歩行能力などの身体機能やQOL（quality of life）の低下をもたらす疾患です。またASOは高度に脳、心臓に血管性病変を伴い、生命予後が悪いことも報告されています。QOLの著しい低下にとどまらず、歩行障害によって活動度が減少しさらに病態が進行するという悪循環を繰り返すことから初期治療では危険因子の管理とともに跛行の改善を図ることが重要とされています。

世界中で増加する下肢閉塞性動脈硬化症（ASO）に対して、グローバル診療ガイドラインの必要性が高まり、欧米の複数の学会が中心となって、2000年にTASC trans atlantic inter-society consensusが発表され、2007年にその改訂版であるTASCIIが発表されました。その後TASCIIIに向けた検討が開始されていたところ、2013年に、ヨーロッパ血管外科学会（ESVS）、アメリカ血管外科学会（SVS）、世界血管学会連合（WFVS）が揃ってTASCIII作業グループから脱退を表明しました。ガイドライン作成の作業プロセス、企業の関与、透明性に関して、TASCグループと基本的な意見の相違が解消できなかったことをその理由として挙げています。そしてESVS、SVS、WFVSは合同で、エビデンスを重視し、企業の影響

を受けない、血管疾患の管理に関するグローバルガイドラインを作成することを宣言しました。

このガイドラインは、SVSのグローバルガイドライン活動の一環で無症状や間欠性跛行症状のASOに対してまず行う治療は保存的治療であること、血管内治療や外科治療などの侵襲的治療は保存的治療でも改善しない重症例にのみ行う手段であることが力説されています。

ASOの有病率は女性より男性で高く高齢者で多い疾患であり、総有病率は40歳以上60歳未満が2.5%、60歳以上70歳未満で8.3%。70歳以上で18.8%と上昇するため、今後高齢者が急増する日本ではさらに上昇すると予想されます。

一方、いったん重症化した虚血肢患者は、その約50%の症例で血行再建術が施行されていますが、最初から切断の症例が25%で、内科治療のみが25%です。しかしその1年後の転帰は死亡が25%におよび、切断後の生存率は30%です。その2年後はさらに死亡率が上昇することも同時に報告されています。

このため、無症状や間欠性跛行症状のASOへの積極的な早期介入は患者のQOLを保つだけでなく心血管病変も含めたリスクを低減させることとなります。

上記ASOに対する治療は、“監視下”の運動療法プログラムを常に考慮すべきと推奨され（グレードA）、さらに薬物療法でトレッドミル運動能、およびQOL改善のエビデンスのあるシロシタゾールの投与も推奨されています（グレードA）。

当院では2011年から間欠性跛行を有する患者に対し、トレッドミル運動を指標とする全国治験に参加しています。治験薬の処方と運動療法が主体の治験ですが、その観察期間は半年から1年の長期観察期間となります。そのためABIの低下した患者が定期的に受診しなければならず、その結果、治験終了時はプラセボ患者でもあきらかにQOLの改善が得られ跛行距離も延長しており、日常生活には支障がない程度の運動能力の改善がえられていることが驚きです。

アメリカではテレビでASOを紹介し、「ASOは心血管病変のrisk factorであるからドクターにコンサルトしなさい」と啓蒙をしています。

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ121回

医業未収金の縮減に向けて

企画課 財務管理係 野村彩乃 友成優理奈 村川友理

当院は「1年365日24時間、断らない救急医療」のスローガンのもと多くの救急患者を受入れています。その中には無保険者や生活困窮者の受診もあり、医業未収金の管理は極めて重要であると考えています。

今年度における未収金の発生となった患者数の統計をとったところ、入院期間が短い救命病棟においては、未収患者が多い傾向にあり、その要因の多くは保険証や限度額適用認定証の作成に間に合わず退院となってしまうケースが考えられます。そのほかの要因としては、身寄りのない方、生活保護受給中の方の事故などといった支払方法の確定までに時間がかかるケース、第三者にけがを負わされたようなケース（ご本人は支払意思無し）、自殺未遂による救急搬送（借金苦などに起因する場合支払い能力のない方）などが挙げられます。

そこで、当院では次のような取組みを行いました。生活保護受給者の事故による入院は支払方法が確定せずそのまま退院になるとその後の交渉も難航するケースが多いため、新たに対応フローチャートを作成し、連絡票の供覧を行いました。早期に関係部署へ情報提供することで入院日数を最小限に抑え発生未収金も抑えることができました。

退院後、時間が経過すると、保険証等を持参することが無く電話もつながらなくなるケースが多いため、保険証や限度額適用認定証の作成状況を入院時に確認し、作成していない場合は速やかに家族に働きかけ、身寄りがない場合や家族の協力が仰げない場合は、退院時にすぐに作成に行くように促しました。

また、当院では法的措置による督促を実施しており、今年度の回収額は約170万円（弁護士回収分約54万円を含む）と、十分回収効果を得られています。

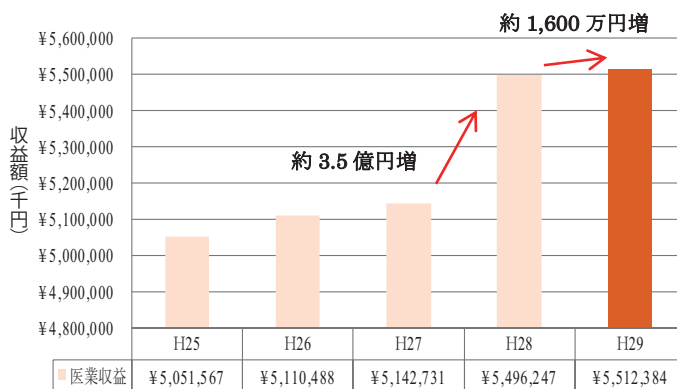
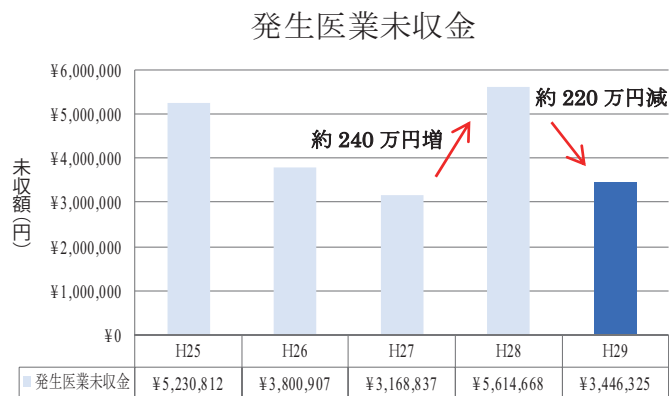
今年度10月末時点（平成29年7月以前分）の債権の状況を前年度の同時期と比較すると、医業収益は約1,600万円増加しているのに対し、債権額は約220万円減少しており、取り組みの効果が確実に現れていることが分かりました。

未収金は、病院経営の根幹を脅かすものとなるため、早期の情報収集と適確な対応が必要です。これらは直接的に関わる事務・ソーシャルワーカーだけでなく、医師・看護師をはじめとする病院の組織的な対応が重要であり、情報量が多いほどその後の未収金対策につながります。財務管理係は、今後も以上の取り組みをより強化し未収金の縮減に努力して行きたいと思えます。

平成25年度～平成29年度の当院の状況

4月～7月診療分(10月末時点)

医業収益



一新校区新春の集いに参加しました

毎年恒例の一新校区新春の集いに参加してまいりました。この集いは、毎年、一新校区公民館主催で、一新校区16町内の代表と各種委員会役員、一新まちづくりの会役員、自治協議会の皆さん、合わせて約100名の方々が横手にある正立寺（しょうりゅうじ）の講堂に集まり開催されます。

来賓として、熊本市中央区長、熊本市中央郵便局長、第一高等学校長、西山中学校長、一新小学校長と国立病院院長が出席しています。私が副院長の時から出席していますので、今年で6年目になります。当日、開始前に、長年に渡り当院の運営に多大なるご協力を戴いています、一新校区自治協議会会長の毛利秀士様を、皆様の前で、改めて病院表彰させていただきました。



新春の集いの様子

私たちの病院と第一高校は、第6町内に所属しておりますが、一新校区の皆さんはとても優しく私たちを受け入れて下さり、応援して下さいます。当院が、現在の地に建て替えできたのも、ヘリや救急車を沢山受け入れられるのも、一新校区の皆様のご理解のお陰です。感謝し尽くせません。（院長 高橋 毅）



地域医療連携室直通電話をご利用下さい

先生方には日頃より患者様の御紹介を頂きありがとうございます。

当院は、地域医療連携室へのお電話が繋がりにくいとのことご指摘を受け、直通電話を設置致しております。

この直通電話は、関係医療機関の皆様から頂くお電話のみをお受け致します。患者様からの直接のご相談は、これまでどおり代表電話を通じて承る予定です。

医療機関の皆様のための直通電話になります。ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。

今後ともよろしく願い申し上げます。

地域医療連携室長 渡邊健次郎

地域医療連携室直通電話 096-353-6693

月～金（祝日を除く）AM 8:30～PM 17:00



国立病院シャトルバス ダイヤ改正

患者様やご家族が、より便利にご利用しやすくなるように国立病院シャトルバスの病院発を増発します。ぜひご利用下さい！！



運賃：大人150円・小人80円

国立病院発 → 通町筋、水道町方面行き（交通センター経由）		平日祝日運行 ※年末年始は運休いたします								
運行時刻表										
F	国立病院構内発	9:10	10:10	11:00	12:00	13:30	14:30	15:30	16:30	18:00
E	国立病院前	9:11	10:11	11:01	12:01	13:31	14:31	15:31	16:31	18:01
D	交通センター⑩番のりば	9:16	10:16	11:06	12:06	13:36	14:36	15:36	16:36	18:06
C	市役所前	9:18	10:18	11:08	12:08	13:38	14:38	15:38	16:38	18:08
B	通町筋	9:21	10:21	11:11	12:11	13:41	14:41	15:41	16:41	18:11
A	水道町（電車通り沿い）着	9:25	10:25	11:15	12:15	13:45	14:45	15:45	16:45	18:15

研修医レポート

臨床研修医

よしむら ゆりな
吉村 優里奈



こんにちは、研修医1年目の吉村優里奈と申します。宮崎大学医学部を卒業し、昨年4月より熊本医療センターで初期研修をさせていただいております。研修が始まって早くも1年が経とうとしておりますが、まだまだ知らないことも多く周りの方々に助けていただきながら充実した研修生活を送っています。

私は血液内科から研修がスタートし、循環器内科、麻酔科、呼吸器内科、外科、そして現在消化器内科をローテートしています。最初はカルテの使い方や薬の処方、検査のオーダーなど基本的な病棟業務を覚える

ことに精一杯でしたが、指導医の先生をはじめ、スタッフの皆さん、研修医の先輩方の温かく熱心なご指導もあり、なんとか一通りできるようになりました。

最初に研修した血液内科では移植治療が積極的に行われており、机上の勉強では想像できなかった治療の現場を目の当たりにし、重症の患者さんに何をすればいいかわからず自分の無力さを痛感したとともに、日々の研修から一つでも多くのことを学んでいこうと決心したことを覚えています。

各科の研修と並行して救急外来での当直もあり、未だに当直の度に少し緊張してしまっていますが、エコー技術や各診療科で学んだ知識を生かせる場面も少しずつ増えてきました。現在研修している消化器内科では緊急性の高い患者さんが救急外来から来ることも多く、初期対応から診断、治療まで診ることができたため大変勉強になりました。

また、11月には学会発表の機会もあり、プレゼンの準備やポスター制作等大変貴重な経験をさせていただくことができました。未熟な部分も多く、これからも様々な科でご迷惑をおかけすると思いますが今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

歯科研修医

なかお みふみ
中尾 美文



初めまして。歯科口腔外科研修医の中尾美文と申します。

私は、口の中だけではなく、全身も診られる歯科医師になりたいという理由から、学生の頃より将来は口腔外科に進もうと思っていました。病院見学の際、他科との合同オペを見させて頂き、診療科間の垣根の低さに非常に感銘を受け、熊本医療センターでの研修を希望しました。そして、念願叶いこの病院での研修生活を始め、もうすぐ1年が経とうとしています。

歯科口腔外科では、基礎疾患を持った方の一般歯科治療から、埋伏智歯抜歯、口腔粘膜疾患や口腔腫瘍、顎顔面外傷、更には内視鏡を用いた嚥下機能評価まで、

一般歯科では経験することのできない、幅広い症例を数多く経験させてもらっています。また、他科と連携しながら治療を行ったり、他科との合同オペにも入らせて頂くことも多く、歯科は医科と切り離すことはできない存在であり、「医科の中の歯科」であるということ、身をもって実感しています。その分、歯科の知識だけでは対応できないことが多く、自分の勉強不足や未熟さを痛感する日々ではありますが、部長の中島先生をはじめ、歯科の先生方や歯科衛生士の方々、看護師の方々に支えられながら、毎日楽しく充実した研修生活を送っています。歯科医師としての基盤となる大事な1年目を、この熊本医療センターで過ごすことができ、心から幸せに思っています。研修医としての期間も残り僅かとなりましたが、色々と教えてくださるスタッフの方々や、多くを学ばせてくださる患者様に毎日感謝しながら、これからも立派な歯科医師になるため尽力していく所存です。至らない点も多々あるかと思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

診察風景



歯科口腔外科スタッフ



研修のご案内

第159回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成30年3月7日（水）18：30～20：00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：「内因性救急疾患」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長

西川武志

国立病院機構熊本医療センター血液内科部長

日高道弘

※症例呈示とミニレクチャーを用意しています。

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

第192回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.0単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成30年3月15日（木）19：00～20：45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「高血糖緊急症と急性下肢動脈血栓症」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

鶴田裕一郎

2. 「糖尿病患者の大血管合併症予防を目指して」

熊本大学大学院生命科学研究部代謝内科学 助教

瀬ノ口隆文 先生

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 西川 武志 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5441

第229回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成30年3月19日（月）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 内科症例検討 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。

「第1症例 透析に導入した1症例」

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科

中村敬志

「第2症例 胃癌に対する緩和治療中にDICを併発した症例」

国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科

池邊 壮

2. ミニレクチャー「胃癌、大腸癌に対する内視鏡治療」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科

久木山直貴

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター教育研修部長 富田 正郎 TEL：096-353-6501 (代表) FAX：096-325-2519

第10回 診断と治療－最新の基礎公開講座－

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶平成30年3月24日（土）15：00～17：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：西整形外科医院 院長

西 芳徳 先生

演題：「歩行障害」

1. 整形外科の立場から

国立病院機構熊本医療センター整形外科部長

橋本伸朗

2. 神経内科の立場から

社会医療法人 黎明会 宇城総合病院神経内科部長

平原智雄 先生

3. 脳神経外科の立場から

国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長

坪田誠之

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025 (直通)

2018年

研修日程表

3月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

3月	研修センターホール	研修室
1日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「傷の治療」 国立病院機構熊本医療センター形成外科部長 大島秀男	
2日(金)		
3日(土)	13:00~17:15 第18回 熊本PEECコース	
4日(日)	9:00~13:00 第3回 熊本PPSTコース	
5日(月)		
6日(火)		
7日(水)	18:30~20:00 第159回 救急症例検討会 「内因性救急疾患」	
8日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「気管切開と気切チューブの選択」 国立病院機構熊本医療センター耳鼻咽喉科医長 上村尚樹	18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)
9日(金)		
10日(土)		
11日(日)		
12日(月)		
13日(火)		
14日(水)	18:00~19:30 第109回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルパス研究会(公開)	13:00~17:00 季節の糖尿病教室(研2)
15日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「摂食・嚥下障害の評価と治療」 国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科部長 中島 健	19:00~20:45 第192回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.0単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
16日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「肝がんについて」
17日(土)		
18日(日)		
19日(月)		19:00~20:30 第229回 月曜会(内科症例検討会)(研2) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
20日(火)		
21日(水)		
22日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「中毒診療について」 国立病院機構熊本医療センター救急科医長 山田 周 14:00~15:00 第60回 市民公開講座 「緩和ケアの話」 国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科医長 磯部博隆	
23日(金)		
24日(土)	15:00~17:30 第10回 診断と治療 -最新の基礎公開講座- 「歩行障害」 [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 西整形外科医院 院長 西 芳徳 先生 1. 整形外科の立場から 国立病院機構熊本医療センター整形外科部長 橋本伸朗 2. 神経内科の立場から 社会医療法人 黎明会 宇城総合病院神経内科部長 平原智雄 先生 3. 脳神経外科の立場から 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 坪田誠之	
25日(日)		
26日(月)		
27日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
28日(水)		
29日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「臨床倫理」 国立病院機構熊本医療センター教育研修科長 原田正公	
30日(金)		
31日(土)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)